

新住園景

令和 6 年度【第 3 号】
2024 年 6 月 1 日発行
八頭町役場商工観光室
(0858-72-0144)

—八頭町地域おこし協力隊活動の現場から—

伝統が息づく地域の誇り

約390年にわたる伝統を誇り、古式を厳格に守り続ける神幸祭に参加させていただき、その美しい格式と厳肅さを身近で感じる事ができました。参加者の年齢や服装、さらに練り方や掛声にまで細かな規則があることから、この神事がいかに厳肅な神事であるか肌で感じました。

特にこの祭りを通じて、過去の祖先たちがどれほど精神的な高みに到達し、その伝統を粘り強く守り続けているか、移住してきてから感じていた地域の結束力や団結力などが点と点で結びつきました。八頭町の皆様の素晴らしさが、この祭りを通じて一層輝いていました。

地域の皆様が団結して大切に受け継ぐ伝統あるお祭りは、まさに「地域の誇り」であり、日常でお目にかかる方々が、四方を清める四方切りやダイナミックな狂い獅子、神の担ぎ手となる姿に、言葉では表現しきれない感動を身近で味わうことができました。



神楽獅子の獅子舞



人気を揃えて

伝統の継承にはさまざまな難題もあるかと思っています。この貴重な体験に心から感謝致します。

真柳加奈子

遠見山登山道整備

雪が溶けて山開きの季節が近づいてきました。5月の遠見山登山イベントが開かれるのに合わせ、昨年に続き馬酔木（あせび）の会の方々と遠見山の登山道を整備してきました。

今回で3回目。のこぎりや剪定鋏を用意して登りました。巨木はチェーンソー組に託し、畠のように地面から出ている木の根や通り道を覆う枝を切ったり、ロープの巻き直しもしました。昨年ほどではないですがとても荒れていました。山は放っておくとどんどん荒れていくそうで、人の手が入るのも大事なことだと思いました。僕だけかもしれないが、冬を越えた山は、空気の清らかさが違います。空気がひんやりしていてマイナスイオンに溢れている気がします。

今年は残念ながら遠見山登山イベントには参加できませんでしたが、皆さんが安全に登れるように整備できたので、ぜひ登山シーズンを楽しんでもらえればと思います。

岡田悠作



作業中の癒やし



作業中

水路に棲む二枚貝

今、淡水にも二枚貝が生息していることはご存知ですか？水路にはマシジミというシジミがあちこちに住んでいます。また場所は限られますが、ドブガイやカラスガイと呼ばれるような大型の淡水二枚貝も生息しています。そして、これらの淡水二枚貝の多くは絶滅危惧種。今では見られる場所も減ってきました。

水田の準備が始まり、船岡地域にて泥上げをしていたところ、何と絶滅危惧種のマツカサガイを発見しました。船岡地域では初の記録になります。地元の方の話では昔からいたとの事ですが、専門家が誰も気付かず見落とされてきたのでしょうか。泥上げ作業の翌日、さっそく休みを頂いて鳥取環境大学の学生たちと上げた泥の中からマツカサガイを探しては水路に戻します。泥を上げない訳にはいきませんが、貝を水路に戻してあげるだけでも生存率は大きく変わります。こうしたちょっとした歩み寄りで守れる希少な生き物も数多くいるのです。

小宮春平



鳥取県絶滅危惧Ⅰ類マツカサガイ



泥あげ作業



泥上げ作業中に見つかったマツカサガイ

○担当課より

- ・あっという間に6月を迎え気温もぐんぐん上昇、夏の足音を感じています。それぞれのフィールドで活躍している隊員ですが、実は八頭町のイベントをお手伝いしている機会も多いのです。人との繋がり作りも協力隊の重要な活動ですので、見かけた際にはお気軽に声をかけてみてください。（田渕）

○協力隊からのお知らせ

- ・インスタグラム【 yazu_life 】で八頭の魅力を発信しています！（アクセスはこちら▶）



八頭町役場ホームページからカラーでご覧いただけます。